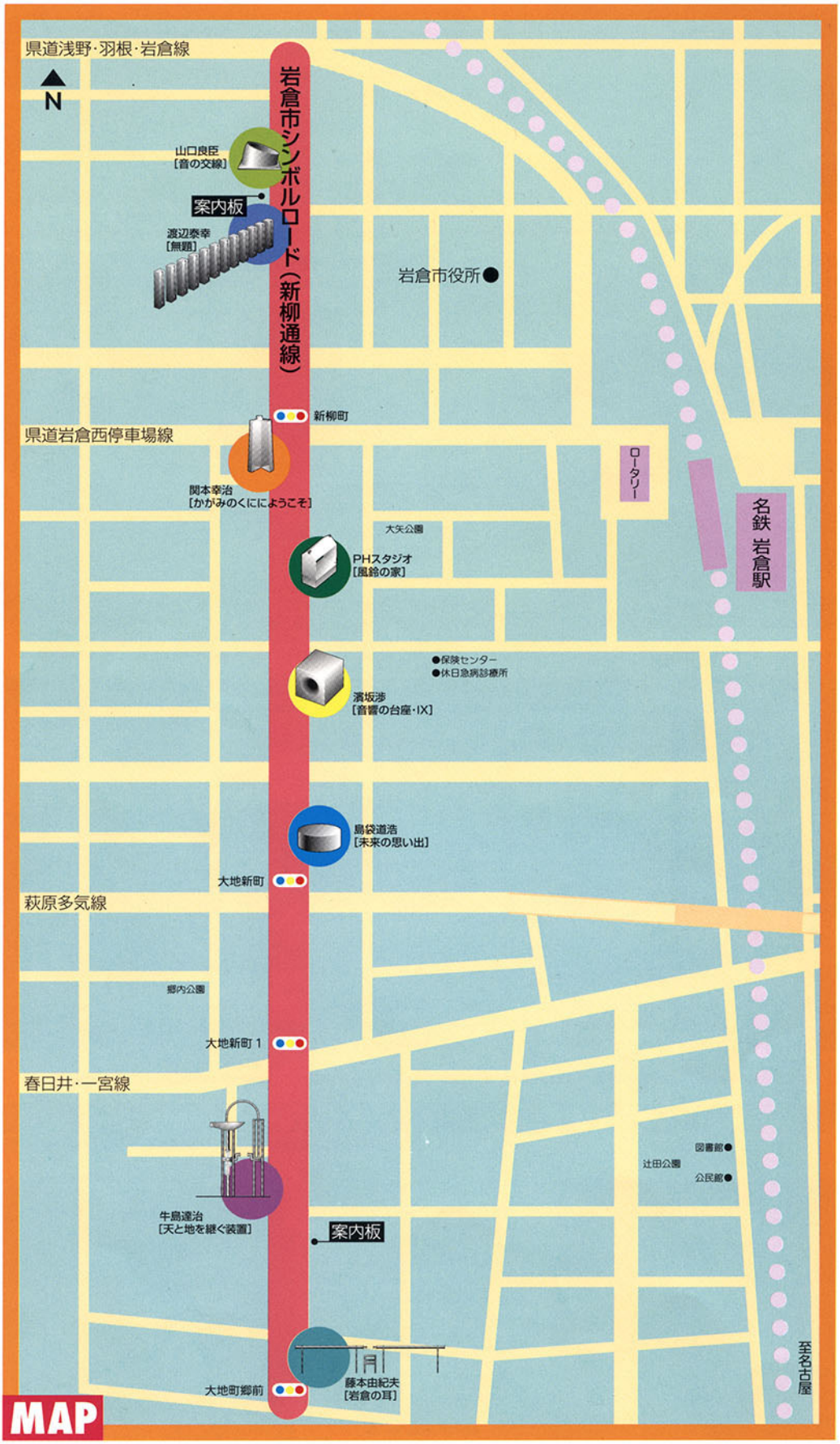
岩倉市シンボルロード
音のアートマップ



岩倉市は、濃尾平野のほぼ中央に位置し、五条川の桜並木で知られる人口約4万6千の都市です。数年前、ナゴヤシティ管弦楽団（現セントラル愛知交響楽団）に無償で練習場を提供したことから音楽とのつながりが深まり、現在では「音楽」をまちづくりの大きなテーマの一つとしています。岩倉市シンボルロード『音のアート』は、市のほぼ中央を南北に走る市道新柳通線の整備（新柳通線シンボルロード整備事業）に伴い、沿道に8点の『音のアート』を設置したアートプロジェクトです。

岩倉市シンボルロード：岩倉市栄町―大地町
名鉄新名古屋から犬山線で岩倉駅まで15分。名鉄岩倉駅西口より徒歩約5分。
名神高速道路一宮 I.C.または小牧I.C.から15分。

●山口良臣/音の交線（1997年）
YAMAGUCHI,yoshiomi/SOUND INTERSECTION

750×750×400mm（計4点）
コンクリート、鋳鉄

街が都市化されていくにつれて、地下に封じ込められてしまうものがあります。『音の交線』は覆われてしまう水路に流れる水の音を取り出して、岩倉の歴史を掘り起こすとともに、地下（=未知の世界）への興味を抱かせる作品です。

■作家のアプローチ

歩道が拡幅されることで地中に隠れてしまう水路。それはある意味で岩倉の街の歴史の一部も忘れ去られてしまうことになるのです。
山口さんは、隠されてしまう街の歴史と水の音を取り出すという提案をしました。

■作家プロフィール

1950年埼玉県生まれ。愛知県在住。映像を用いた作品を主に制作する中で『音の交線』は異質ではありますが、見えないものに対する想像力を喚起させる装置となっています。

●渡辺泰幸/無題（1997年）
WATANABE,yasuyuki/UNTITLED

200×200×1,200mm（計12点）
コールテン鋼、ステンレス、樹脂加工した木

真っ直ぐに並んだ12の金属の箱にはバチがぶら下がり、掴んで放すと音が鳴ります。それぞれの箱には異なる切り込みが入れられ、微妙な音色の変化を楽しむことができます。

■作家のアプローチ

音については地域に住む人への影響も考えて神経を配らせなければなりません。渡辺さんは試作品を作って音量などを事前に確かめ、また土鈴や土笛を作るワークショップでは、参加者が音に対する意識を深めました。

■作家プロフィール

1969年岐阜県生まれ。これまで主に土を使い、手で触れて音を出すことのできる作品を手掛けてきましたが、『無題』では異素材で同様なことを試みました。

●関本幸治/かがみのくにによようこそ（1996年）
SEKIMOTO, kohji/WELCOME TO MIRROR LAND

840×740×1,900mm
ステンレス、鉄、音響装置

鏡のように映る作品の足元の3カ所に小さな足跡がついています。それぞれの位置に立つと、自分が2人映ったり、1人だけだったり、全く映らなかったりします。ボタンを押すと“かがみよかがみよかがみさん”と子供の声が聞こえてきます。

■作家のアプローチ

「かがみよかがみよかがみさん・・・」。作品から聞こえてくるのは岩倉市内の幼稚園児の声です。声の録音は、園児の皆さんに変身したいものの絵を描いてもらいながらワークショップ形式で行われました。

■作家プロフィール

1969年神戸市生まれ。人の地球環境との関係などを作品のテーマに用いることが多く、今回も鏡と子供の声でメッセージを伝えようとしています。現在はドイツに留学中。

●PHスタジオ/風鈴の家（1996年）
PH STUDIO/HOUSE WITH WIND-BELLS

6,960×1,800×2,100mm
アルミ、アクリル、白木蓮

家、扉、灯篭、木蓮の木。全てが作品です。家の中に座ると屋根の隙間からは空が見え、風が吹くと風鈴が鳴ります。光の具合によっては7色のプリズムが映っているのも見えます。『風鈴の家』は道往く人に束の間の休息の場を提供し、シンボルロードにひだと影を作ります。

■作家のアプローチ

ストリートクリスマスパーティーは雪の降る寒い日に行われましたが、多くの人が集まり、皆さんが持ち寄った食べ物などで温まりながらシンボルロードの楽しみ方を知りました。これも作品の一部だったのです。

■作家プロフィール

1985年頃から活動開始。徹底したフィールドワークによって作品を形作っていきます。『風鈴の家』についても同様で、岩倉市をくまなく歩き、人と出会った結果が形になって表れたのです。

●濱坂　渉/音響の台座・IX（1996年）

HAMASAKA,wataru/THE BASE OF SOUND-IX

1,200×1,200×1,300㎜
御影石

大きな四角い石の真ん中には丸い穴が開いています。大人でも充分くぐることのできる大きさです。聞こえてくるものに注意しながら穴の中に頭を入れてみると、穴の中と外では音の聞こえ方が違うことがわかります。

■作家のアプローチ

濱坂さんの提案は作品の形の提案ではなく、作品制作の手法の提案でした。6回シリーズのワークショップでは岩倉の音の採取に始まり、イメージの2次元化、3次元化と進み、参加者の音響を巡る体験が作品を形作りました。

■作家プロフィール

1951年東京生まれ。主に石を素材として音をテーマにした作品を数多く制作しています。パブリックアートも多数手掛け、アートの地域との関わりについても熱心に研究しています。

●島袋道浩/未来の思い出（1996年）

SHIMABUKU,michihiro/MEMORY OF FUTURE

400×1,200Φ㎜+α
鋳鉄に金属溶射

シンプルな丸い台座は座るのにちょうどいい高さで、その上に立つとステージのようでもあります。島袋さんは岩倉市を訪れ、ある日突然何かを置いていきます。台座の上で本人や他のアーティストがパフォーマンスをすることもあります。

■作家のアプローチ

見る度に姿が違ったり、無くなったり、町の人々が持ち帰ることができるパブリックアートがあってもよいのではないかというのが島袋さんの提案でした。彼は頻繁に岩倉市を訪れては台座の上に作品を置き、また台座を飾り、そして地域の人との親交を深めました。

■作家プロフィール

1969年岡山県生まれ。人との出会い、コミュニケーションなどをテーマにした作品制作、パフォーマンスを行っています。『音のアート』もきっかけとなり、名古屋への移住を決めました。

●牛島達治/天と地を継ぐ装置（1997年）

USHIJIMA,tatsuji/DEVICE FOR CONNECTING THE SKY AND THE EARTH

3,300×1,200×3,600㎜
ステンレス、真鍮、アクリル樹脂、FRP、濾過装置

天空からの音と地中からの音をイヤホーンを通じて両耳で聞くことができ、体の中で地球の中心から宇宙までがつながっているかのように感じることができます。雨の日には地下水に水滴が落ちる音も聞こえます。

■作家のアプローチ

作品の制作過程に参加するという貴重な体験ができたのが牛島さんの作品です。ワークショップでは、地中の音を取り出すための穴を人の力だけで掘ることを提案しました。水の音が聞こえたときの感動は忘れられません。

■作家プロフィール

1958年東京都生まれ。機械のようで機械ではない「無用な機械」を作っています。一見、無機的に見える作品の中に実は自然や人、宇宙とのつながりが感じられるスケール感があります。

●藤本由紀夫/岩倉の耳（1997年）

FUJIMOTO,yukio/EARS IN IWAKURA

6,600×500×1,195㎜
ステンレス、塩化ビニール

椅子に腰掛けて両側のパイプを耳にあてると、リズムのある車の音とパイプ自体の振動音とで不思議な聴覚体験ができ、目の前に広がる緑は視覚的にも面白い効果を与えてくれます。

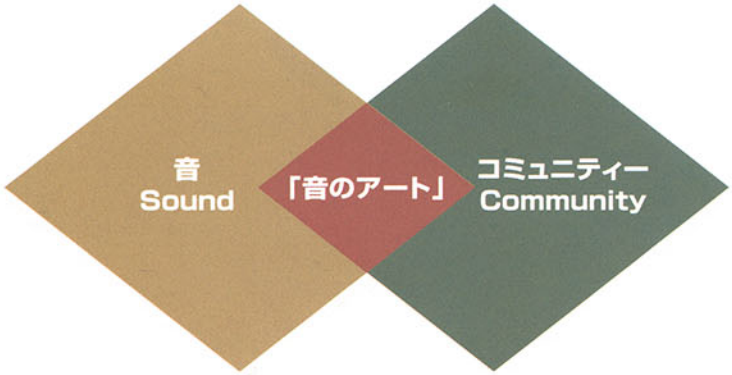
■作家のアプローチ

パブリックアートは作品を設置する場所も重要な要素となります。藤本さんは交差点を通る車の音と垣根に注目して作品に相応しい場所を見つけました。また、ワークショップでは音に関する様々なことを学びました。

■作家プロフィール

1950年名古屋市生まれ。「聞く」ことについてこだわり、作品制作、パフォーマンス、またワークショップなどを行っています。『岩倉の耳』では視覚的な効果も考えられた作品となっています。

岩倉市シンボルロード『音のアート』



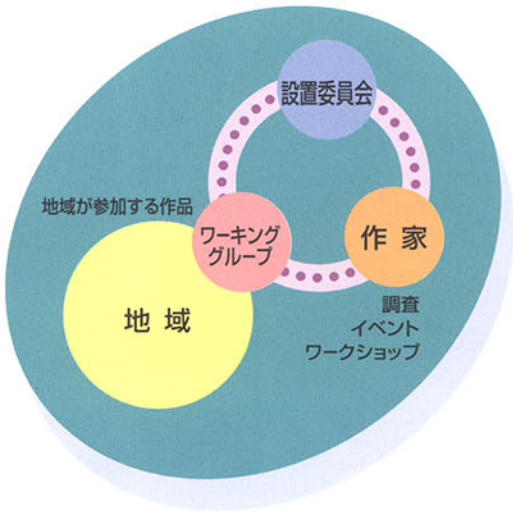
テーマは「音」と「コミュニティー」

岩倉市シンボルロード『音のアート』は、「音」と「コミュニティー」を大きなテーマとしました。
「音」は、市のこれまでの音楽への取り組みをふまえながら、音楽をもう少し広く捉えたもので、作品は実際に音が出るものとは限定せずに考えました。作家側からの作品提案も「音」をかなり広範囲に解釈したものとなりました。
「コミュニティー」は、設置の経過において地域の理解と参加が求められるようにという意図から設定しました。せっかく設置された作品が、通り過ぎる人の共感を得られずに放置されていくことのないようにと、考えられたテーマです。

「地域が参加する作品」ワークショップやイベント

岩倉市シンボルロード『音のアート』は、平成7年度、8年度に各4点、計8点の作品制作・設置を行うプロジェクトとしてスタートしました。
これにあたり、まず、美術の分野などの専門家や地元有識者らで構成された設置委員会と、地域の住民・大学の若手研究者・大学院生らからなるワーキンググループを組織しました。
設置委員会は作品提案における条件を整えつつ、作家の選定を行い、これまで音の作品を制作していたり、コミュニティーに関わって作品づくりをしてきた作家を年度毎に8名（グループ）ノミネート。その後、作家による調査・検討の期間を経て、それぞれの作品提案のプレゼンテーションを受け、民主的な審査によって年度毎に4点の作品を決め、作家へ制作を依頼しました。
ワーキンググループは設置委員会のサポート、また、作家と地域とをつなぐ役割を果たす組織で、実際に作家による調査や作品提案に盛り込まれたイベント、ワークショップを実行していく中心メンバーとなりました。

提案を採用された作家は、地域の住民との様々な連携のもとに制作を進め、平成9年3月までに計8点全ての作品の設置が完了しました。



「音のアート通信」の発行

平成8年度には、「音のアート通信」を発行し、全戸に配布しました。

公開プレゼンテーション

平成8年度には、作家による作品提案を一般に公開した「公開プレゼンテーション」を行いました。

音のアート制作レポート

各年度とも、作品設置前後に、最終的な経過報告を兼ねた制作レポートを開催しました。

『音のアート』その過程

ノミネート
●年度毎に8名（グループ）の作家をノミネートし、作品提案を依頼。

作家による調査・検討
●各作家が現地などをまわり、作品提案に対する調査、設置希望の候補地選びを行った。

プレゼンテーション
●各作家は設置委員会に対して作品提案のプレゼンテーションを行った。

作品の制作依頼
●設置委員会は、様々な角度（コンセプト・安全面・構造・地域への配慮など）から提案内容を検討。最終的に計8作家へ制作を依頼。

作品制作
●各作家が提案にそって制作。ワーキンググループは、ワークショップなどを実行する中心メンバーとして多くの活動を行った。

設置

●発行:岩倉市建設部都市計画課　〒482 岩倉市栄町一丁目66番地 TEL 0587-66-1111　●制作:（有）アートパラダイス